

第49号
2023年 8月31日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail:kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680



「今だからこそ考える 養育で大切なこととは」

真生乳児院 副施設長 濱田 栄二



令和5年4月1日子ども家庭庁が発足され、乳児院をはじめとする社会的養護の施設は厚生労働省から子ども家庭庁へと所管が変わりました。子ども真ん中、社会を誦い、子ども目線で、子どもにとって有益な子どものための制度がどの様に作られて行くのでしょうか。まさに、子どもの権利を護る」という権利の主体としての実現です。個人的には今一番興味深いことであり、楽しみでしかありません。なぜなら自分の子ども時代を思い返し、子どもである自分の考えを社会が尊重し受け入れて貰える。つまり自己実現が可能になると考えるとワクワクしませんが、今の子どものためにそんなワクワクした感情の毎日を過ごして欲しいと願わずにはいられません。

さて話は乳児院に変わりますが、毎日子どもたちと顔を合わせますと無垢な笑顔だったり、反対にうまく思いを伝えられず体全体を動かして訴えながら怒っていたり、事が上手くいかず泣いている姿を見かけます。子どもからのメッセージが職員へ直接送られてくる訳です。実は職員が子どもから承認を受けているのです。承認については後述ですが、このメッセージに対し職員が「うしたかったんだね」とか「一緒にしようか」などと問いかけ、子どもに寄り添っています。すると子どもの顔が笑顔で満たされていきます。そして最後には職員に抱っこされる姿があります。まさにこの職業の最大のやりがいではないでしょうか。ついつい私もその姿に微笑み、幸せな気持ちにもさせて頂きます。

しかし子どもの成長を支える職員は、これだけではダメなのです。子どもの年齢や発達に合わせた生活習慣や子どもの小さな社会で過ごすための導きも必要となります。いわゆる「躰」と言われるものです。躰と言いま

す「褒めて子育てをするのでしよう？」と言われます。正しい考え方だと思えます。しかしそれだけでは不十分なのです。叱られたことのない子どもが社会自立し、会社で叱られて鬱になつたり、直ぐに会社に来なくなるが増えているようです。褒められる経験と叱られる経験のバランスが必要なのではないでしょうか。

それでは「褒める」とは？「叱る」とは？何でしょうか。この二つの言葉は相反するように思えますが、実は表裏一体なのです。つまり、褒めて良い行動を増やす。叱って悪い行動を減らして良い行動を増やす。どいうやらその目的は一緒なのです。私は団塊ジュニア世代であり、その時代は叱ることが中心の躰でした。寧ろ「躰」の算式のようなものでした。家庭では父親は怖い存在でしたし、いたずらしたり、宿題を忘れたり、先生の言われたことを聞かなかったときに体罰は当たり前という風潮で、学校で叱られたことが親の耳に入れば、「あなたが悪い」と、また叱られたものです。褒められたことなど記憶にありません。体罰は否定されるべきなのですが、しかし叱ると言う躰すべてを否定する必要はないようにも思います。ただし注意し



今の時代の中にあつて神戸真生塾の各事業所において、それぞれの専門性を持つ役割の中で何が提供できるか、特に、入所施設である乳児院、児童養護施設、自立援助ホームにおいても『地域支援』を推進するように

国の制度も変わりつつあります。大きな変革期を迎える時に、「変えていくべき事、変えない事」について検討し勇気を持って取捨選択を行うようになることが求められています。法人内の事業所による連携等も検討して行く時期に来ているかと考えられます。

子どもたちの健康を守りつつ、その時にしかできない体験を担保することが出来るように職員と工夫していきたいと考えます。

乳児院 (真生乳児院)

今年度も定員30名での事業を推進し、これまで通り1クラス5名で2クラスを1ユニットとした、3ユニット(計30名)の小規模グループ体制で運営します。このうちの1クラスは

2020年度から続けている体制で、乳児早期の児の安全と感染防止を目的として、0か月〜4ヶ月未満の乳児のみとします。保育士・看護師・管理栄養士・調理員、および2名の家庭支援専門相談員(FSW)、里親支援専門相談員、育児指導担当職員、家族療法担当職員、個別対応職員、臨床心理士を配置して、子どもたちにとって入所から退所にいたるまでの期間を継続した養育が行われるように特に、配慮しています。

また、2023年度の4回目の第三者評価受審にむけて、整備と改良に取り組んでまいります。

児童養護施設 (神戸真生塾)

今年の年間聖句は『五千人に食べ物を与える』ヨハネによる福音書 6章 9節〜13節です。五つのパン二匹の魚で五千人が満たされるはずがない。と感じていました。しかし、1995年1月の阪神・淡路大震災の時に、被災地の避難所を支援してまわった際に、同じような光景を目にすることが出来ました。それは、それぞれが持っているものを少しずつでも出し合うことでお互いが支え、支えられることを学びました。あの当時は信号機も点灯していませんでした。

たが、お互いが譲り合い、助け合う「やさしさに溢れた街」でした。

我々も日常生活の中で「子どもが持つ力」を感じる時があります。思っている以上に理解していて、思っている以上に子どもたち同士が助け合う場面もあります。今一度、子どもの力を信じて、子どもの想いに耳を傾けることから、「子どもの最善の利益を守る」こと。「意見表明権(権利擁護)を守る」ことを意識して取り組んでいく一年とします。

児童家庭支援センター (神戸真生塾)

子ども家庭支援センター

2023年度は児童福祉法改正を念頭に置きながら、さらに各機関との連携を強化し、支援の質の向上とチーム力向上を目指します。年間のテーマとしては、「アセスメント」と「わくわく」とし、件数増加に伴い支援の質が低下しないようにアセスメント力を高め、関わる家庭も職員もわくわくするような支援機関を目指します。今年度は以下の5つのことを重点的に取り組んでいきます。

- ③ 虐待の予防と再発防止
- ④ 里親養育支援
- ⑤ 居場所としての機能

幼保連携型認定こども園 (真生きさらぎ保育園)

全国的には少子化の流れになつてきていますが、神戸市内、中央区はまだ待機児童が多く、特に神戸市立山の手小学校区の子どもが増えているのが現状です。その為、卒園児及び地域の児童の居場所として学童保育が昨年度よりスタートしました。また、園庭開放等に求められる地域の親子の育児不安を解消する場の提供として地域の子育て支援の役割も検討していきま

- ① チーム力、支援の質の向上
 - ② 地域のかかりつけ子育て相談場所
- 引き続き、認定こども園としての保育の質の向上を目標に発達の気になる子どもへの支援として大学の先生と連携しながら「応用行動分析」を活用した保育の推進を継続して行います。また、神戸市私立保育園連盟、日本キリスト教保育所同盟、神戸市民福祉大学などの外部研修と園内で課題となるテーマの研究を企画し、経験年数等を踏まえて自己研鑽を積んでいきます。

児童自立生活援助事業

(神戸市児童自立援助ホーム 子供の家)

2023年3月1日現在、自立援助ホームは全国に253ホーム、近畿に26ホーム、県内に4ホームと増えました。現在、全国自立援助ホーム協議会あり方検討委員会に近畿代表として参加しています。来年度からは協議会のあり方が変わり、各ブロックの強化を重視しながら、役割を分散し、ホーム同士や関連機関との繋がりを強化する方向に向かっています。

また、1年後には入所児童の上限年齢撤廃となり、大きく変化していく事が予想される中、来年度からも近畿ブロック副代表を2年間していく事が決まり、近畿ブロックの自立援助ホームの繋がりを重視しながら、神戸の児童に関わる多くの施設や関連機関との繋がりを活用し、神戸らしさが出せるよう、しっかりと連携・連動しつつ、新しい発想やチャレンジを試みながら、日常生活に困っている子ども達に、安心の場と、相談できると言う思い、それに伴う即行動を実現することにより、子ども達の成長につなげていけるよう努力してまいります。

児童養護施設 神戸真生塾

創立記念お祝い会

黒田 祐加

5月21日、この日は天気にも恵まれ、入所児童を始め、退所生や旧職員、役員の皆様をご招待し、神戸真生塾133周年の創立記念お祝い会を行いました。感謝礼拝は、全体でロータリーに集まり、お祝い会は入所児童は各部屋毎に、来て下さった退所生や旧職員、役員の皆様はホールに分かれての実施となりました。



り、感謝礼拝では、讚美歌を賛美し、上杉施設長のお話し、お祈りを行いました。お祝い会では、神戸真生塾定番のカレーライスを色々なトッピングをのせて頂き、団欒のひと時を皆様と楽しみながら過ごす事が出来ました。

墓参礼拝では、初めてお墓掃除をする子どもがほとんどで、どのようにしたらいいのかを参加して下さった方に、教えて頂きながら行い、とても良い経験になったと感じました。

2020年から新型コロナウイルス

ウィルスの流行により、毎日の生活が思うようにいかず、楽しみにしていた行事を行う事も出来なくなりました。子ども達も、制限のある生活にストレスを感じる事も多々あったと思いますが、5月8日にコロナが2類から5類に引き下げられた事で、少しずつ生活が元の形へと戻りつつあります。

今回4年ぶりに皆様と集まる事ができ、行事を開催出来る嬉しさ、会いたかった人と会う事が出来た嬉しさ、神戸真生塾の創立をお祝いする時間を皆様と持てる事の大切さに、改めて気がつく事の出来た時間となりました。

これからも神戸真生塾は、子ども達と共に歩み続けていきます。そして来年もまた、皆様方と一緒に神戸真生塾の創立記念日のお祝い出来る事を、楽しみにしております。



フットサル大会

児童指導員 山本 惇矢

令和5年5月27日に第65回神戸市児童養護施設スポーツ大会に、神戸真生塾も7名の児童が参加を希望し、練習を重ねて大会に臨みました。施設内での練習では、本番に比べると十分な広さが無い環境下でした。そのような環境下でも、パスを繋いでシュートを打つ練習や、フェイントの練習、パスカットの練習と、試合形式が大好きな子ども達にとっては少し難しい練習も多くありましたが、一生懸命練習に取り組み上達していく子ども達の姿が印象的でした。



大会当日は、快晴でスポーツ日和な天気となりました。練習の成果も十全に発揮する事が出来、子ども達同士声を掛け合い諦めずゴールを守り、ボールを繋ぎゴールを狙う、良い姿を見せてくれました。また、応援に駆けつけてくれた児童や職員の声援と、出場した子ども達の奮闘の結果、準優勝という素晴らしい成果を収める事が出来ました。

令和5年8月9日・10日に開催される、第71回近畿児童福祉施設スポーツ大会に出場する事になり、子ども達は宿泊も含む大会参加という初めての体験に臨むこととなります。本番までに、監督に当たる職員のみならず、施設全体で出場児童たちと練習に励み、結果に囚われず、悔いの残さない良い試合を行えるよう、頑張っていきます。私も、この大会と大会に向けた練習が良い糧となり子ども達のように良い成長に繋がっていく事を祈り、子ども達と一緒に汗を流しながらこれからの練習に臨み、共に成長していきたいと思っております。この文章を読んで頂いた皆様も、子ども達の活躍を応援して頂けたら幸いです。

乳児院 真生乳児院

姫路セントラルパーク遠足

5月5日姫路セントラルパークに遠足に行きました。当日は天気も良く絶好の遠足日和です。リュックを背負い帽子をかぶり準備万端！「いってきまーす！」とはりきって出発しました。

乗り物が大好きな2歳のA君。初めてバスに乗ります。走っている車を見つけると「ブーブー！」と言い夢中になって何度も窓の外を覗き込んでいる姿はとて微笑ましかったです。

道中「まだかな〜」と待ちどおしそうにしていた子ども達。姫路セントラルパークに到着すると、絵本やテレビでしか見た事のない動物たちに興味津々でみんな目をキラキラさせ大喜びでした。特にキリンのエサやりは毎年子ども大人も大盛り上がり！Bちゃんも前日から「キリンにごはんあげようね」とエサやりをとて楽しんでいました。



ました。いざキリンを目の前にすると想像していたよりも大きくてびっくり！楽しみにしていたエサやりは泣いてしまい出来ませんでした。キリンに会えたことが嬉しかったようで帰りのバスでは「キリン大きかったね」「Bちゃん泣いちゃったの」と嬉しそうに話してくれました。



た。Bちゃんのように泣いて遠巻きに見る子、怖がらずにする子、おそろおそろする子様々でしたが普段できない体験をすることが出来、みんな満足そうでした。

遠足から帰るとしばらく、「バスに乗ったね」「ガオガオ（ライオン）おったね」と思いつく話に花を咲かせる子が多く、子ども達にとつてとても楽しい時間を過ごす事が出来たのだと、嬉しく思いました。

バスに乗り遠出の外出経験が少ないので子どもたちにとつてとても良い経験となりました。

小野川 奈稀紗

お散歩大好き

2歳のYくんはお散歩が大好きです。個別保育の日に大好きなお散歩へ出掛けました。

「お散歩行こっか！」とYくんに呼びかけると、うきうきした様子でお散歩の準備をして、養育者と手を繋ぎます。外に出ると、「あ！あ！」と行きたい方向を指差します。元気な足取りで歩いて行くと、公園に鳩の群れを見つけました。Yくんは、「あ！ぽっぽ！」と大興奮。鳩に向かって一目散に走って行きました。「ぽっぽ！」「あ！」と指差し、鳩が飛んで行ったことを一生懸命に伝えようとしてくれました。「ぽっぽ、行っちゃったね」と声をかけると、「ばいばい〜！」と笑顔で大きく手を振りました。



公園を出ると、消防署の方へ向かいました。消防署には、救急車と消防車がありました。

Yくんは、「お〜！」と大きな声を出し、喜んでいました。その様子を見ていた消防隊員の方が、「写真撮って良いですよ。」と言って下さり、消防車と一緒に写真を撮りました。Yくんは撮った写真を見て「っこり。」また行こうね。」と消防隊員の方の手を振り、帰りました。

大人にとっては、何気ないお散歩コースの風景ですが、子ども達にとっては、たくさん発見が溢れています。これからも子ども達の発見や好奇心を大切にしながら、日々関わっていきたくて感じた1日でした。

田村 光暖

幼保連携型認定こども園

真生きらきら保育園

アフターコロナ

新型コロナウイルス感染症が収束したわけではありませんが、コロナが5類に引き下げられ、気持的には少し開放された感じがします。コロナ禍で制約のある保育が続いていましたが、その中で子どもたちが楽しい経験が出来るように取り組んできました。小さいクラスの保護者の方から、「うちの子はコロナ禍で育ちました。家族以外の人のマスクを取った顔を見たことがないので、早く保育園でもマスクを取ってほしい。」とのことでした。人と話す時はやはり、顔の表情が大切です。子どもは、相手の存在を、五感を通して感じることで、安心して過ごすことができます。子どもたちは、周りの大人やお友だちと過ごす中で、表情を読み取る力も育ちます。子どもたちと関

わるときには、ゆったりと関わりながら、大人も子どもも表情を気にしながら、より信頼関係を深めていきたいと思っています。

今まで出来なかったことが順次出来ることに感謝して、アフターコロナの子どもたちの経験を広げていきたいと思っています。

橋本 美記代



もも(1歳児)

暖かいを通り越して夏のような暑い日もある中、汗ばむくらい戸外遊びを楽しんでいる子ども達。

4月は不安そうな表情を見せていた子ども達も、笑顔で過ごせるようになり、園庭や室内で楽しめるようになっていきます。活動の範囲も広がり、日々周りの物や人と興味関心が広がっている様子です。保育教諭や友だち



ちと嬉しそうに過ごす時間が増えてきました。お友だちにも興味を示す子が増えて顔をのぞき込んだり、泣いている子がいると顔をよしよしとしてあげたりする姿も見られるようになっていきます。

朝のお礼拝では、椅子に座って参加出来るようになり、季節の歌が始まると手を振ったり体を揺らしたりしています。お名前を呼ばれると「はい」と手を挙げられるようになりましたよ★お友だちが手を挙げられるとぱちぱちと拍手もしてくれま

久保田 菜生・阿部 暁子



新任職員紹介

児童養護

近藤 未空



〔趣味〕 映画鑑賞

〔特技〕 体を動かすこと、どこでも寝られること

〔抱負〕 社会人1年目で不安いっぱいですが、子どもたちと笑顔溢れる日々を過ごせるよう、またより良い保育者を目指して頑張ります。よろしくお願い致します。

平野 菜々子



〔趣味〕 音楽を聴くこと・読書

〔特技〕 書道

〔抱負〕 子ども達が安心して過ごせるように、丁寧な関わりに努め、子どもたちの素敵なお話をたくさん見つけていきたいと思っています。精一杯頑張りますので、よろしくお祈り致します。

乳児院

田路 未空



〔趣味〕 音楽鑑賞

〔特技〕 絵を描くこと

〔抱負〕 子ども達一人ひとりの思いを受け止め、子どもたちと一緒に成長していけるような真つ直ぐで心優しい保育士になれるよう日々努力していきます。宜しくお祈り致します。



渡邊 明日生



〔趣味〕 ミュージカル鑑賞

〔特技〕 お菓子・パン作り

〔抱負〕 神戸真生塾で働く事ができとても嬉しく思います。子どもたちとたくさん触れ合う中で「楽しい、嬉しい」など様々な思いを一緒に共有し、健やかな成長を支えられるよう頑張ります。



自立援助ホーム

本田 佳子



〔趣味〕 野球観戦

〔特技〕 サイクリンド

〔抱負〕 子ども達との関わりの中で、喜怒哀楽を共にし、その日の様子や小さな変化に気付けられるような職員でありたいと思っています。よろしくお祈り致します。



子ども家庭センター

宮本 敬彦



〔趣味〕 スポーツ観戦、商店街探索

〔特技〕 声を通る(でかい)

〔抱負〕 他施設で長く職員経験がありますが、新鮮な気持ちで頑張りたいと思います。よろしくお祈り致します。



2022年度
8月度入社です

ありがとうございました

寄付並びに児童招待ご芳名

敬称略・五十音順
二〇二三年一月一日〜二〇二三年六月三十日

寄付金

- 上杉環
- 学校法人神戸女学院
- 学校法人名古屋学院
- 数田紀久子
- 家庭養護促進協会
- 株式会社大古曾
- 加渡
- 関西学院高等部
- 関西学院宗教活動委員会
- 倉石哲也
- 神戸教会 有志
- 神戸昇天教会
- 神戸女子大学
- 頌栄幼稚園
- 住元義則 淳子
- 捜真女学校高等学部中学部
- 玉川聖学院
- つるかめ菅財株式会社
- 東洋英和女学院
- 友藤喜久子

寄付物品

- イケメン大集合
- 大社貴子
- 岡本株式会社
- 加藤史子
- (株)沖繩タイムス社
- (株)Daska & Desiree
- カルビー(株)
- 神戸市社会福祉協議会
- 三宝
- 神果神戸青果(株)
- 高橋裕人
- 中川洋品店
- ニガキ
- 平井友紀
- まほろば
- 実祝プランニング
- ムーンプット(株)
- 明治
- 門司一徹
- 橋本ヤス子
- P & G
- UNIX TOKYO



いじものしづやき

「色々な色のかりんとうが食べたい。好きやねん。」と嬉しそうにAちゃん。それは、こんぺいとうだよと、皆に突っ込まれ恥ずかしそうでした。

(Aちゃん・12歳)

プッチンプリンを食べる際に職員の洗い物の事を考えてプッチンプリンをそのまま食べるか、お皿に乗せて食べるか悩んでいる姿がありとても可愛いなと感じました!!

(Kくん・12歳)



職員は施設内の連絡用にPHSを持っており、それを「ピッチ」と呼んでいます。宿題中にMちゃんが、「わたしのピッチだして!」と言ってくるので、「Mちゃん、ピッチ持つてるの?」と聞くと、「持つてるやん。学校のん」と言うので、「もしかして、パソコンのこと?」と聞くと、「そうそう!ピッチじゃなかった!」と、まだ?の顔:「あつ、PCね。」と答えると、「そーや!PCや」と照れ笑い。

(Mちゃん・6歳)

匿名OK
相談無料

子育てでの
困りごとや
悩みごと...
そんなときは

話を聞いて
くれるんだ

スツキリ
できたかも

なんとか
やってみるか

子育てホットライン
078-341-6493

平日休日問わず9:00~18:00
緊急の場合は夜間もつながります

神戸真生塾
子ども家庭支援センター
ロータリー子どもの家

Instagram
ホームページ
Facebook

神戸真生塾子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家

地域への還元

臨床心理士・公認心理師
西村 竜騎

来訪されると、必ずと言っていいほど子どもたちが目を光らせる場所があります。それは、神戸真生塾本館にある水槽です。時には、子どもがそこから動けなくなるほど、子どもの知的好奇心に刺激を与え、魅了させています。そして親子同士の会話も生まれたりと微笑ましい光景が練り広げられます。水槽の中には白メダカ、ダルマメダカ、オロチブラックスワローラメメダカといった希少なメダカやカワムツ、ヨシノボリ、アブラハヤ、ヌマエビといった魚やエビが飼育されています。メダカや水槽、飼育用品一式（エアポンプ、底砂、掃除用品等）は子育て相談を受けている方からいただいたものです。川魚は、野外活動事業で子どもたちと一緒にとってきたものです。実はそれぞれには背景があったりもします。そして、玄関前に並んでいる花壇や菜園なども、地域で余った種や苗をもらったりして、植えていたりもします。育ったトマトやきゅうり、ラデッシュなどは、入所児だけではなく、来訪された子どもたちも食べてもらったり、お渡ししてあります。



す。物価が高いこのご時世には、ありがたい資源かと思えます。

私たちの仕事は、地域住民や社会にある潜在的な力や資源を高めるだけではなく、地域に還元する役割も担っています。使わなくなってしまうたり、強みとなっている地域の資源を別な形で別な地域に再現や還元することで、色々なキッカケが生まれることもあります。子どもが生物に興味を持つこともあれば、魚から連想して出かけたときの思い出につながったり、苦手なトマトが意外と美味しかったりという発見もあります。次第に今度はその子どもたちが還元する側になりたいと感じれば、地域に棲む魚の生態について教えたり、トマトを栽培して食べてもらったりとさらに次の世代へと地域にある資源や知識、強みが還元されていくでしょう。キッカケは様々かと思えますが、キッカケ作りの一つとしてお手伝いできれば幸いです。

神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センターロータリー子どもの家センター長)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主幹保育教諭)
有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家主指導員)
- 苦情解決責任者 上杉 徹 (児童発達施設 神戸真生塾 施設長)
数田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
橋本 美記代 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家庭施設長)
- 第三者委員 岡部 正範 (当法人監事)
中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 令和5年1月から6月末まで 1件

編集後記

新型コロナウイルスの流行も落ち着きを見せ始め、子どもたちの生活も日常を取り戻しつつあります。毎日元氣いっぱい身体を動かし、子どもたち、職員共に楽しく過ごしております。

今回も皆様に広報誌「愛」49号をお届けできましたことを嬉しく思います。これからも日々成長している子どもたちの姿を、本誌を通してお伝えしていきたいと思えます。

最後になりましたが、広報誌刊行にあたりご協力頂きました皆様、また、日頃よりご支援頂いている皆様方へ感謝を申し上げます。

後藤 望美